

関西経済レポート

消費の一部に経済対策の効果が現れている。輸出は中国・アジア向けで回復が見られる。生産は下げ止まっているものの、回復の動きは遅い。雇用情勢は依然として厳しい情勢が続いており、消費も全体として弱い動きが続いている。企業の設備投資計画も減少。

全体として、持ち直しの動きはあるものの絶対水準は低く、厳しい情勢が続いており、先行きはまだ不透明。

2010年1月4日

関経連経済調査部

～目次～

政府・日銀の景況判断	1
日銀短観	2
生産、大口電力需要	3
輸出入	5
個人消費	8
住宅投資	10
設備投資	12
株価為替の動き	13
倒産	14
雇用	15

～政府・日銀の景気判断～

	近畿	近畿地区金融経済概況 日銀大阪支店	中部	金融経済月報 日銀名古屋支店	全国	金融経済月報 日銀	全国	月例経済報告 内閣府
2008年10月	ㇿ	停滞している。	ㇿ	高水準を保ちつつも、下降局面にある。	⇒	停滞している。	ㇿ	弱まっている。
2008年11月	⇒	停滞している。	⇒	高水準を保ちつつも、下降局面にある。	ㇿ	停滞色が強まっている。	ㇿ	弱まっている。さらに下押し圧力が急速に高まっている。
2008年12月	ㇿ	停滞色を強めている。	ㇿ	急速に下降している。	ㇿ	悪化している。	ㇿ	悪化している。
2009年1月	ㇿ	悪化している。	⇒	急速に下降している。	ㇿ	大幅に悪化している。	ㇿ	急速に悪化している。
2009年2月	ㇿ	大幅に悪化している。	⇒	急速に下降している。	⇒	大幅に悪化している。	ㇿ	急速な悪化が続いており、厳しい状況にある。
2009年3月	⇒	大幅に悪化している。	⇒	急速に下降している。	⇒	大幅に悪化している。	⇒	急速な悪化が続いており、厳しい状況にある。
2009年4月	ㇿ	大幅に悪化しており、厳しい状況にある。	⇒	急速に下降している。	⇒	大幅に悪化している。	⇒	急速な悪化が続いており、厳しい状況にある。
2009年5月	⇒	大幅に悪化しており、厳しい状況にある。	ㇿ	引き続き下降しているが、その度合いは緩やかになっている。	ㇿ	わが国の景気は悪化を続けているが、輸出や生産は下げ止まりつつある	ㇿ	景気は、厳しい状況にあるものの、このところ悪化のテンポが緩やかになっている。
2009年6月	ㇿ	厳しい状況にあるが、悪化のテンポは和らいできている。	ㇿ	輸出と生産の持ち直し等から、下げ止まりつつある。	ㇿ	大幅に悪化したあと、下げ止まりつつある。	ㇿ	厳しい状況にあるものの、一部に持ち直しの動きが見られる。
2009年7月	ㇿ	なお厳しい状況にあるが、下げ止まりつつある。	ㇿ	輸出と生産の持ち直し等から、下げ止まっている。	ㇿ	わが国の景気は下げ止まっている。	ㇿ	厳しい状況にあるものの、このところ持ち直しの動きがみられる。
2009年8月	⇒	なお厳しい状況にあるが、下げ止まりつつある。	⇒	輸出と生産の持ち直し等から、下げ止まっている。	⇒	わが国の景気は下げ止まっている。	⇒	厳しい状況にあるものの、このところ持ち直しの動きがみられる。
2009年9月	ㇿ	なお厳しい状況にあるが、下げ止まっている。	ㇿ	東海3県の景気は、持ち直しつつある。	ㇿ	わが国の景気は持ち直しに転じつつある。	⇒	失業率が過去最高水準となるなど厳しい状況にあるものの、このところ持ち直しの動きがみられる。
2009年10月	ㇿ	近畿地域の景気は、雇用面などに厳しさを残しつつも、持ち直しの動きがみられる。	⇒	東海3県の景気は、持ち直しつつある。	ㇿ	わが国の景気は持ち直しつつある。	ㇿ	景気は、持ち直してきているが、自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。
2009年11月	⇒	近畿地域の景気は、雇用面などに厳しさを残しつつも、持ち直しの動きがみられる。	⇒	東海3県の景気は、持ち直しつつある。	ㇿ	わが国の景気は、国内民間需要の自律的回復力はなお弱いものの、内外における各種対策の効果などから持ち直している。	⇒	景気は、持ち直してきているが、自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。
2009年12月	ㇿ	近畿地域の景気は、雇用面などに引き続き厳しさを残しつつも、緩やかに持ち直している。	ㇿ	東海3県の景気は、業種間・企業間の格差が大きいものの、全体としては持ち直している。	⇒	わが国の景気は、国内民間需要の自律的回復力はなお弱いものの、内外における各種対策の効果などから持ち直している。	⇒	景気は、持ち直してきているが、自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。

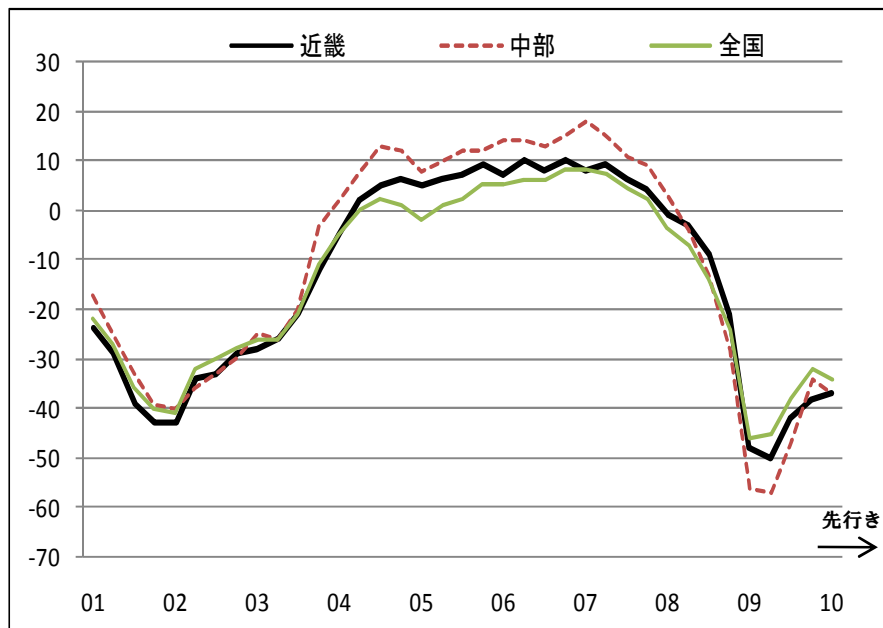
○日銀大阪支店は12月の景況判断を

「雇用面などに引き続き厳しさを残しつつも、緩やかに持ち直している。」とした。(11月から改善)

「輸出は、アジア向けを中心に増加している。生産は、輸出の増加や省エネ家電への政策支援を背景に、持ち直している。このため、企業の景況感にも、低水準ながら製造業を中心に改善の動きがみられる。しかし、内需についてみると、設備投資は、企業収益が依然厳しい水準にあるもとで、減少している。個人消費は、耐久消費財が政策効果により持ち直している一方、雇用者所得の減少が続く中、その他の分野では弱い動きが続いている。この間、公共投資は増勢が鈍化している。」とした。

～日銀短観～

業況判断DIの推移 (09年12月結果まで)



出所：日本銀行 資料

○近畿の業況判断DI (09年12月結果まで)

- ・ 近畿の業況判断DIの12月結果は全産業▲38と、9月調査(▲42)から4ポイント改善。2四半期連続の改善だが、9月調査時より小幅の改善となっている。
- ・ 近畿の先行き見通しは▲37と、足下からほぼ横ばい。
- ・ 全国は、全産業▲32と前回9月(▲38)から6ポイント改善。近畿と同様、9月調査時より改善幅は小さくなっている。
- ・ 全国の先行きは▲34と、足下より悪化する見通しになっている。

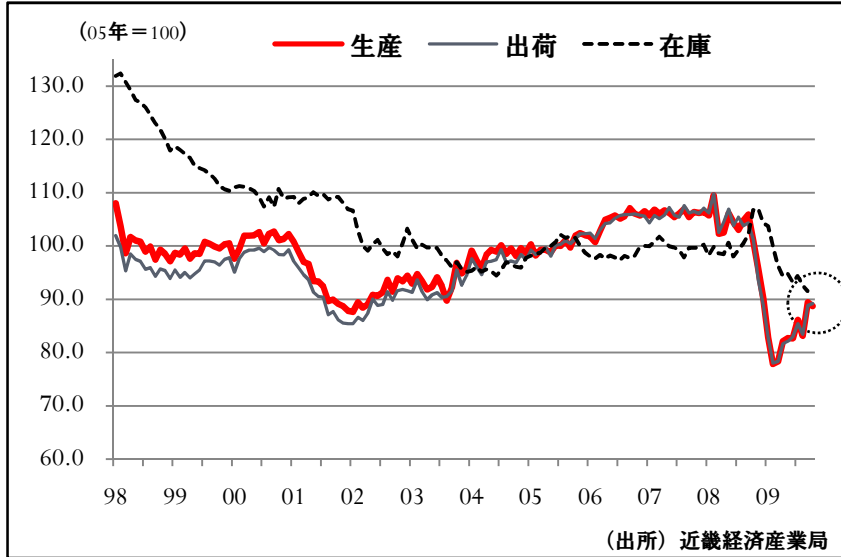
業種別内訳(09年12月結果まで)

近畿			
	2009年 9月	12月	先行き 2010年 3月
全産業	▲42	▲38	▲37
大企業	▲28	▲25	▲22
中小企業	▲52	▲47	▲47
製造業	▲46	▲38	▲38
大企業	▲31	▲25	▲23
中小企業	▲61	▲56	▲53
非製造業	▲38	▲37	▲37
大企業	▲24	▲26	▲22
中小企業	▲45	▲41	▲42
全国			
全産業	▲38	▲32	▲34
大企業	▲28	▲23	▲19
中小企業	▲43	▲37	▲42
製造業	▲43	▲32	▲33
大企業	▲33	▲24	▲18
中小企業	▲52	▲40	▲42
非製造業	▲33	▲30	▲35
大企業	▲24	▲22	▲19
中小企業	▲39	▲35	▲41

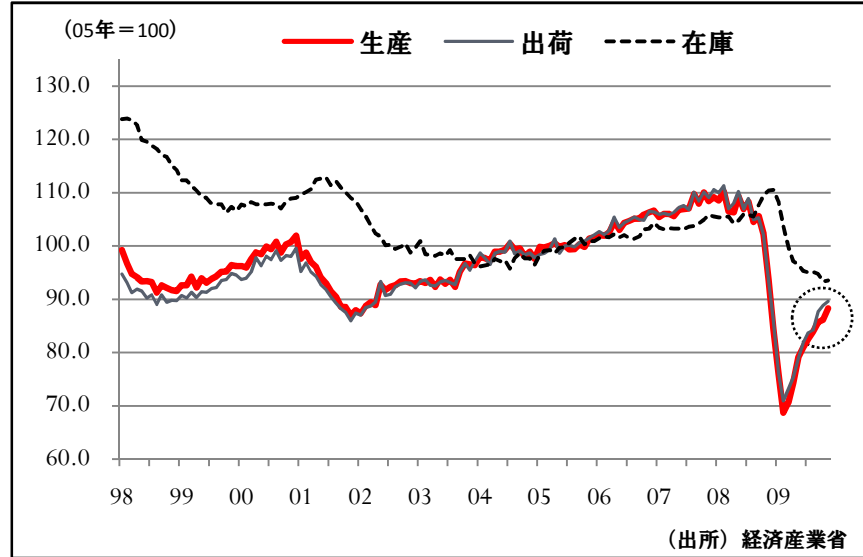
- ・ 製造業の足下が9月調査時から+8ポイント改善したのに対し、非製造業は+1ポイントと小幅の改善になっている。
- ・ 中小企業は足下・先行きとも厳しい見方が続く。
- ・ 業種別では、鉄鋼(▲69→▲53)、精密機械(▲48→▲32)、電気機械(▲42→▲29)の足下が大きく改善している。

～生産～

鉱工業指数の推移（近畿 09年10月確報まで）



鉱工業指数の推移（全国 09年11月速報まで）



業種別鉱工業
生産指数
(前月比、%)

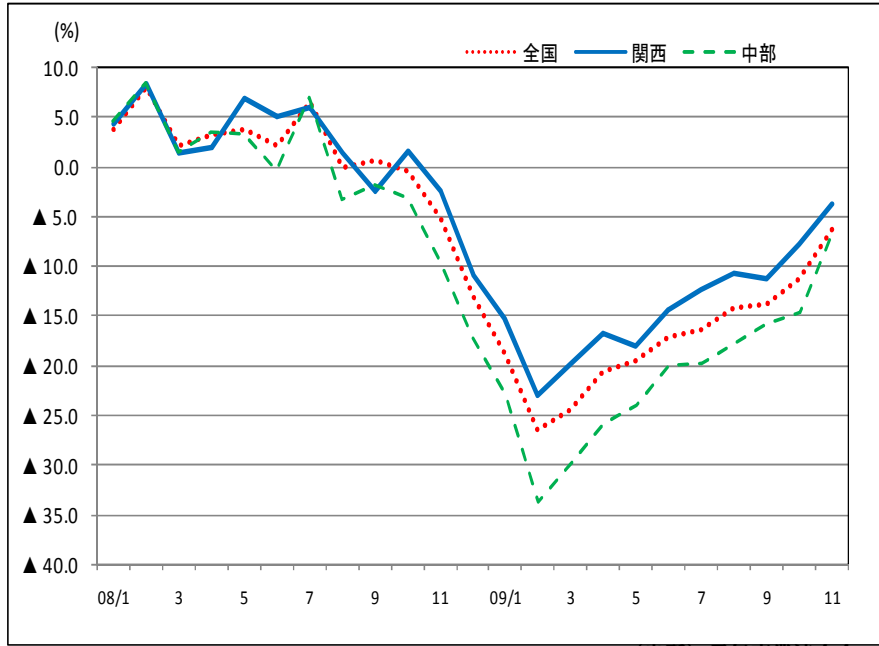
	全体	鉄鋼	金属製品	一般機械	電気機械	情報通信 機械	電子部品 デバイス	輸送機械	化学	食料品 たばこ
近畿7月	4.2	6.0	11.5	22.3	3.7	0.2	▲12.1	3.5	5.3	▲1.1
近畿8月	▲3.5	7.1	▲6.9	▲22.2	▲1.3	27.1	4.8	▲0.6	▲2.3	▲1.1
近畿9月	7.6	5.8	1.8	42.7	▲1.2	▲4.8	▲0.4	10.4	0.1	1.1
近畿10月	▲0.8	0.1	7.0	▲11.8	3.2	2.3	5.7	▲6.2	▲1.8	0.7
全国11月	2.6	5.4	▲1.7	6.4	1.8	2.7	▲0.6	5.9		

*網掛は、生産が
前月比プラスの業種

- ・ 近畿の10月（確報）の鉱工業生産指数は、88.7。前月比▲0.8%と2カ月ぶりの低下。
出荷は前月比+0.4%の89.2と2カ月連続の上昇。在庫は、前月比▲1.2%の91.5と2カ月連続の低下。
 生産低下に寄与したのは、一般機械工業▲11.8%、輸送機械工業▲6.2%等。上昇したのは、金属製品工業、電子部品・デバイス工業等。品目別にみると、ガスタービン、蒸気タービン部品等で低下。橋りょう、鉄骨、アクティブ型液晶素子等で上昇。
- ・ 全国の11月（速報）の鉱工業生産指数は、前月比+2.6%の88.3。10カ月連続の上昇。出荷は、前月比+0.9%と9カ月連続の上昇。
在庫は前月比▲0.2%と3カ月連続の低下。持ち直しの動きで推移している。
 業種別では、輸送機械工業+5.9%、一般機械工業+6.4%等が増加。品目別では、普通乗用車、小型乗用車、軸受、ボイラ部品、電子・電動同玩具等が増加。製造工業生産予測調査によると、11月、12月も上昇の見込み。

～生産～

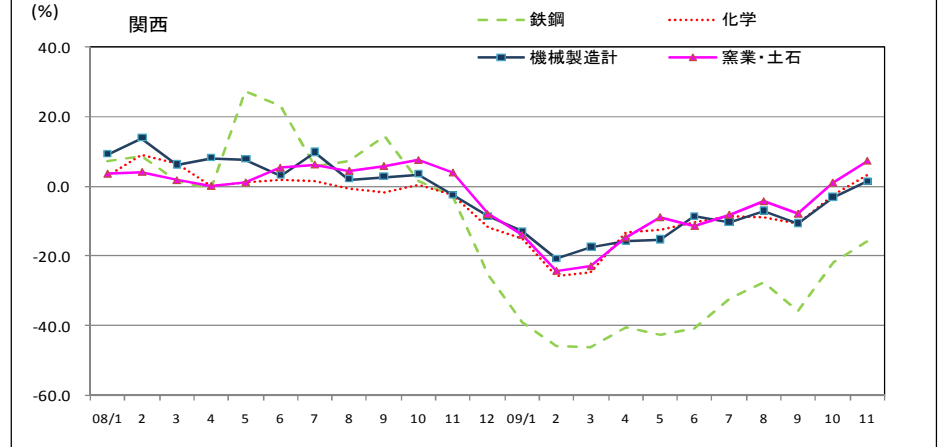
産業用大口電力需要（対前年伸び率・09年11月まで）



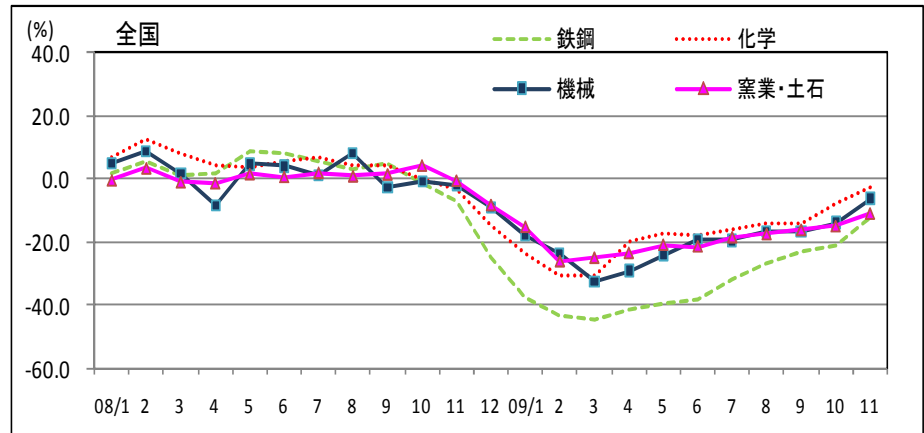
(出所) 電気事業連合会

- ・関西の大口電力実績は、前年比▲3.7%と、13カ月連続で前年実績を下回った。前月(▲7.8%)からマイナス幅は縮小。全国は▲6.2%で前月(▲11.2%)からマイナス幅が縮小。
- ・関西を業種別にみると、主要11業種のうち、「窯業・土石」で2カ月連続、「化学」「機械製造計」で12カ月ぶりに前年比プラス。その他9業種で前年比マイナスとなった。

大口電力産業別実績（対前年伸び率・09年11月まで）



(出所) 関西電力



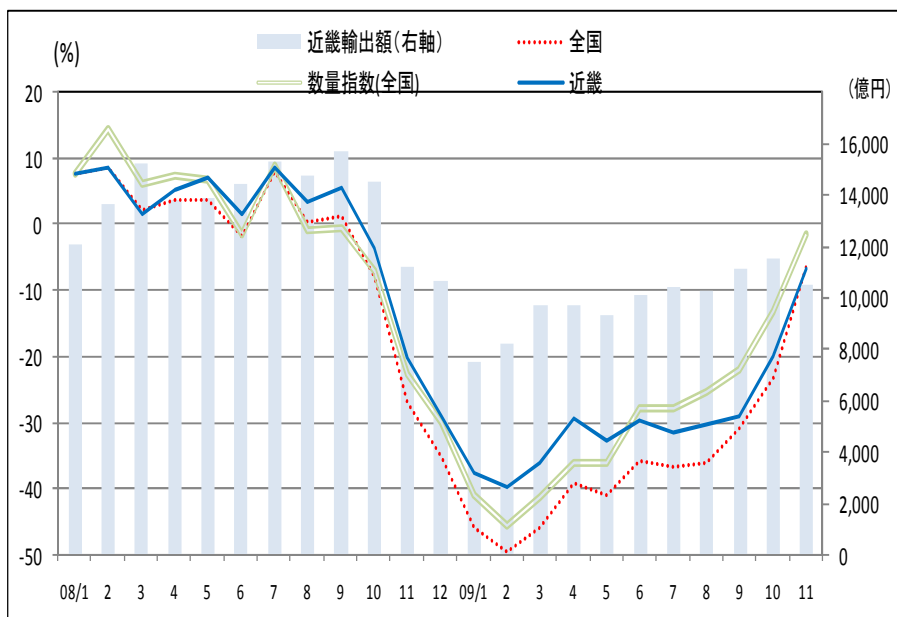
(出所) 電気事業連合会

	食料品	繊維	パルプ・紙	化学	石油・石炭	ゴム製品	窯業・土石	鉄鋼	非鉄金属	機械製造計
8月	▲ 3.9	▲ 18.6	▲ 6.0	▲ 9.1	29.0	▲ 13.8	▲ 4.2	▲ 27.5	▲ 22.9	▲ 7.1
9月	▲ 1.9	▲ 20.6	▲ 6.8	▲ 10.8	13.2	▲ 17.3	▲ 7.8	▲ 35.6	▲ 24.6	▲ 10.7
10月	▲ 2.4	▲ 13.3	▲ 6.5	▲ 2.4	▲ 14.8	▲ 15.6	1.1	▲ 21.7	▲ 20.6	▲ 3.1
11月	▲ 0.3	▲ 6.1	▲ 3.7	3.4	▲ 22.4	▲ 9.0	7.4	▲ 15.6	▲ 13.6	1.4

* 網掛は、前月からマイナス幅が縮小した業種

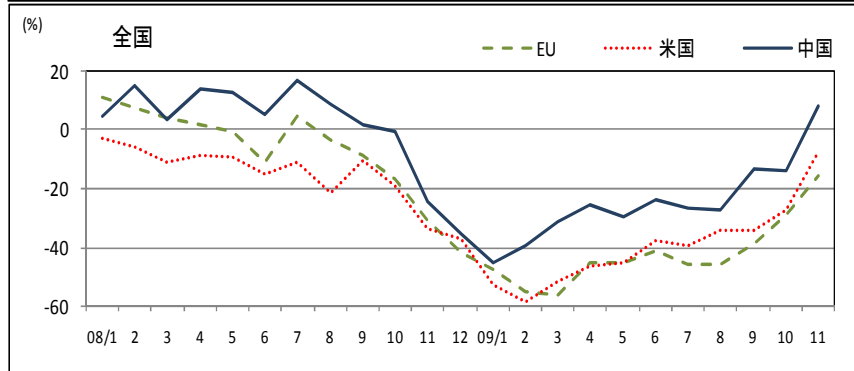
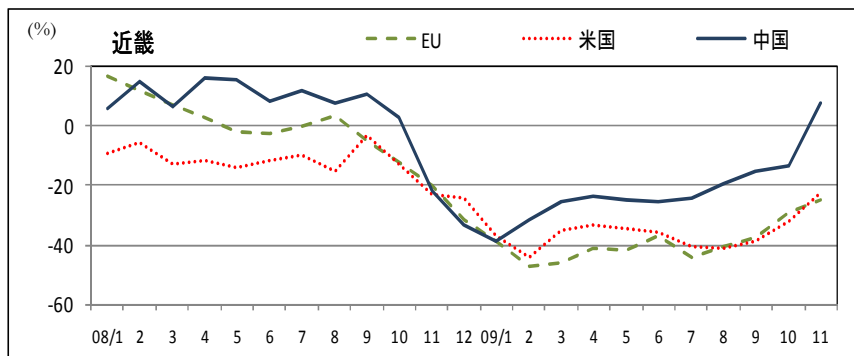
～輸出～

輸出金額・前年同月比増減率推移（09年11月速報まで）



出所：財務省税関(全国)、大阪税関(近畿) 資料

地域別輸出金額前年同月比推移・内容比較



○近畿の月次の輸出動向（09年11月速報まで）

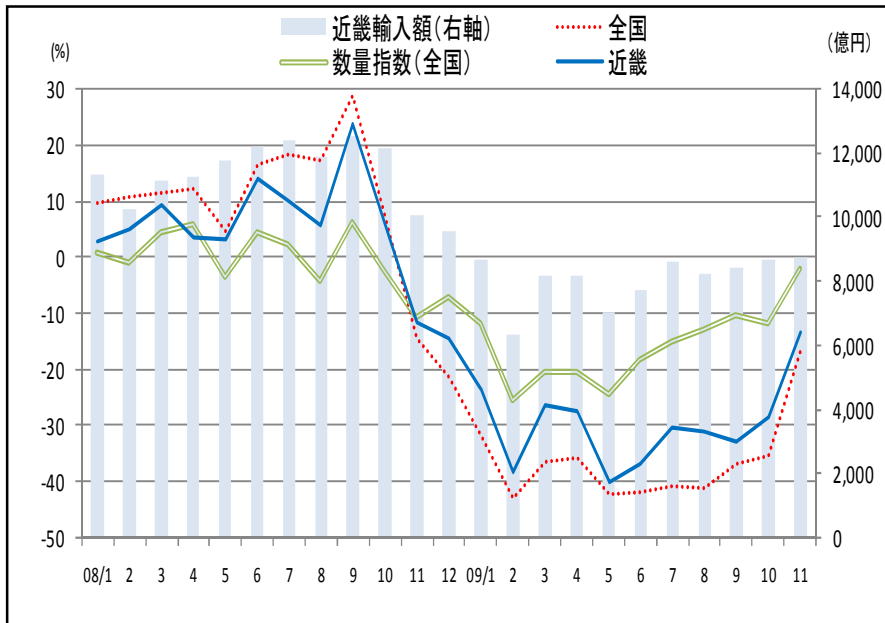
- ・09年11月の近畿の輸出額は、前年同月比▲6.5%と14カ月連続のマイナス。前月（▲20.1%）からマイナス幅は大幅に縮小。
- ・地域別では、アジアが+9.8%と14カ月ぶり、中国が+7.3%と13カ月ぶりの前年比プラス。EUは▲24.5%、米国は▲22.5%。
- ・商品別では、鉄鋼、建設用・鉱山用機等が減少に寄与。増加したのは、韓国・アジア向けのプラスチック、アジア向け半導体等電子部品、中国向け科学光学機器など。
- ・数量を表す貿易指数(全国11月)は、前年同月比▲1.5%と、前月（▲13.0%）からマイナス幅が大きく縮小。

近畿 品目別動向(前年同月比、%)

商品名	8月	9月	10月	11月
全体	▲ 30.4	▲ 29.0	▲ 20.1	▲ 6.5
食料品	▲ 20.0	▲ 21.0	0.8	7.1
原料品	▲ 29.8	▲ 20.0	▲ 14.7	20.2
鉱物性燃料	▲ 60.3	▲ 47.2	▲ 5.6	▲ 38.0
化学製品	▲ 21.2	▲ 14.5	▲ 2.9	15.6
原料別製品	▲ 39.5	▲ 39.0	▲ 26.0	▲ 22.7
一般機械	▲ 39.1	▲ 43.2	▲ 36.1	▲ 15.5
電気機器	▲ 20.4	▲ 19.3	▲ 13.3	1.5
輸送用機器	▲ 41.3	▲ 37.1	▲ 28.9	▲ 20.9

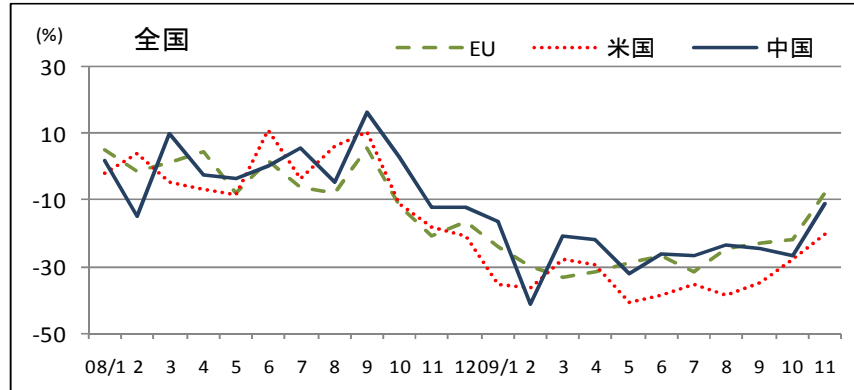
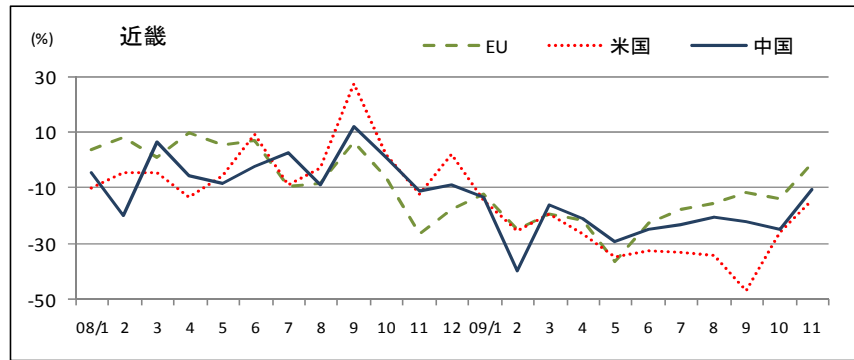
～輸入～

輸入金額・前年同月比増減率推移（09年11月速報まで）



出所：財務省税関(全国)、大阪税関(近畿) 資料

地域別輸入金額増減前年同月比推移・内容比較



○近畿の月次の輸入動向（09年11月速報まで）

- ・09年11月の近畿の輸入額は前年同月比▲13.2%と13カ月連続のマイナス。前月(▲28.4%)からマイナス幅は大きく縮小。
- ・地域別では、アジア▲9.4%、中国▲10.6%、EU▲0.9%、米国▲14.1%。すべての主要地域向けでマイナス幅が縮小。
- ・商品別では、原油及び粗油、天然ガス及び製造ガス、石炭、鉄鋼等が減少に寄与。増加したのは、アジアからの通信機、EUからの医薬品等。
- ・数量を表す貿易指数(全国11月)は、前年同月比▲2.1%と、前月(▲11.7%)からマイナス幅が大きく縮小。

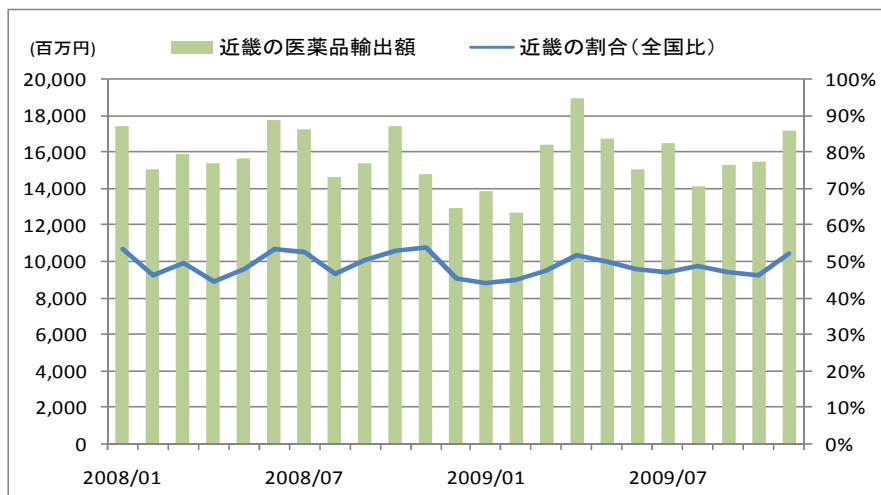
近畿 品目別動向(前年同月比、%)

商品名	8月		9月		10月		11月
全体	▲ 31.0	↘	▲ 32.8	↗	▲ 28.4	↗	▲ 13.2
食料品	▲ 24.3	↗	▲ 22.4	↗	▲ 18.4	↗	▲ 12.3
原料品	▲ 42.4	↘	▲ 55.0	↗	▲ 43.4	↗	▲ 26.9
鉱物性燃料	▲ 55.0	↘	▲ 55.6	↗	▲ 49.6	↗	▲ 34.2
化学製品	▲ 6.9	↘	▲ 23.2	↗	▲ 10.0	↗	▲ 3.9
原料別製品	▲ 45.4	↗	▲ 40.2	↗	▲ 37.4	↗	▲ 24.3
一般機械	▲ 37.0	↘	▲ 38.0	↗	▲ 37.3	↗	▲ 24.9
電気機器	▲ 16.8	↗	▲ 16.2	↗	▲ 14.2	↗	▲ 12.0
輸送用機器	▲ 12.8	↘	▲ 17.5	↘	▲ 33.2	↗	▲ 2.3

関西経済トピックス ～医薬品の輸出入動向～

○2009年に入り、近畿全体の輸出入額は減少したものの、医薬品の輸出入額については、昨年同月を上回る月もあり、比較的堅調。

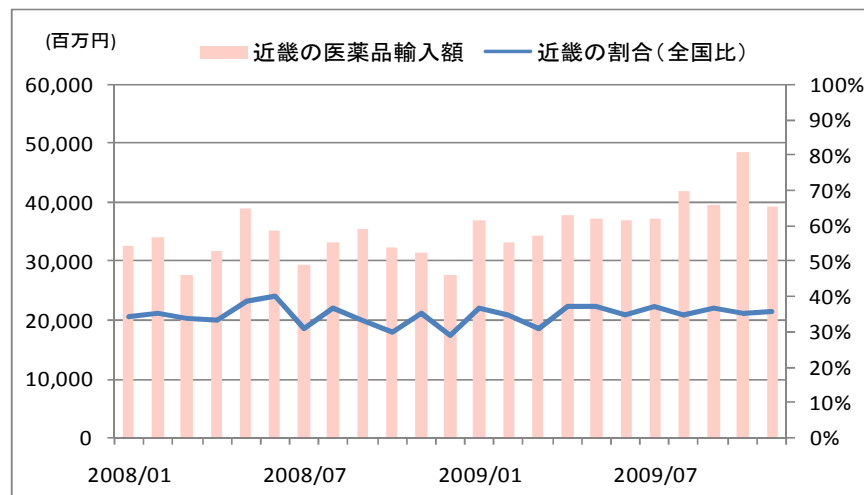
近畿の医薬品輸出額の推移



○近畿の医薬品輸出額は、2008年秋以降、一時落ち込んだものの、2009年に入り増加。最近数カ月、減少傾向にあったが、輸出全般の落ち込みに比べると堅調。11月の輸出額は171億円、前年同月比+16.0%の増加。

○11月の近畿の医薬品輸出額は、全国の52.2%と高い割合を占めている。

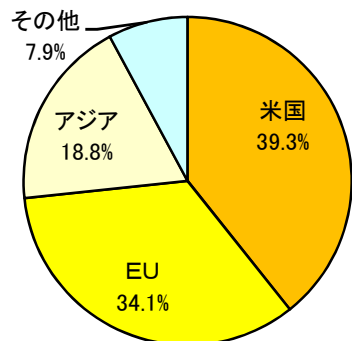
近畿の医薬品輸入額の推移



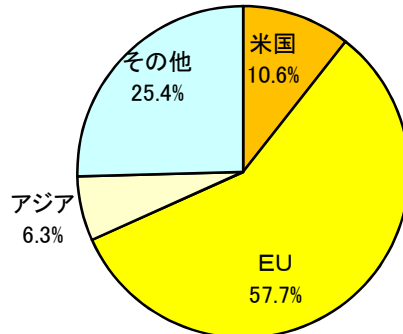
○近畿の医薬品輸入額は、引き続き増加基調にある。11月の輸入額は392億円、前年同月比+25.2%の増加。

○11月の近畿の医薬品輸入額は全国の35.3%と、高い割合を占めている。

近畿圏の医薬品輸出先 (2008年)



近畿圏の医薬品輸入先 (2008年)

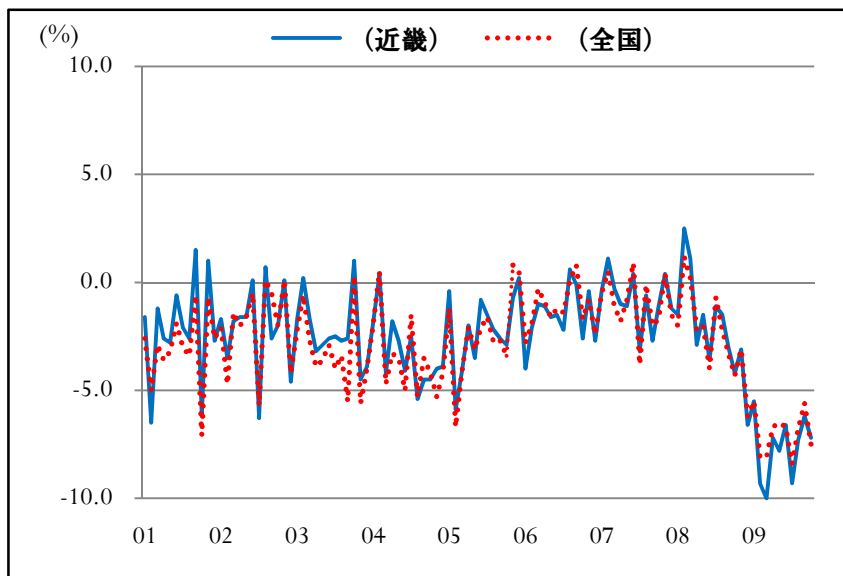


○近畿圏の医薬品は、輸出入とも全国に占める割合は高い。

○輸出入先は、欧米の占める割合が高い。
輸出先は、米国が39.3%、EUが34.1%を占める。
輸入先は、米国が10.5%、EUが57.7%を占める。

～個人消費～

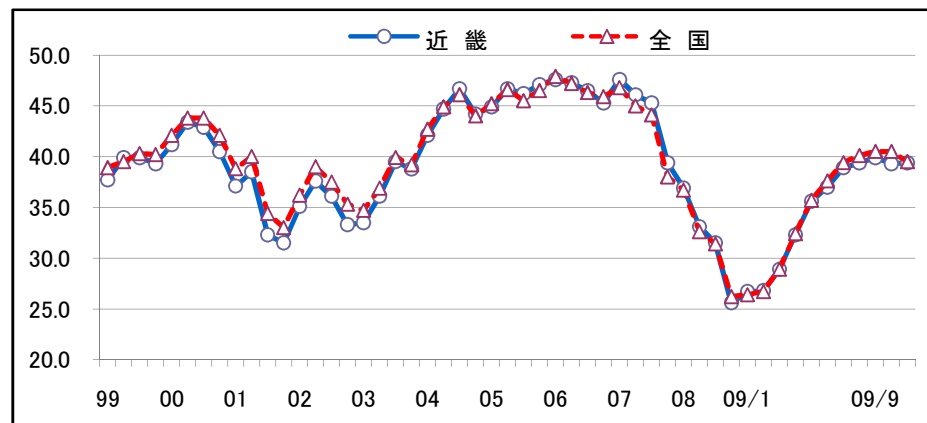
大型小売店売上高（前年同月比・09年10月まで）



(出所) 近畿経済産業局

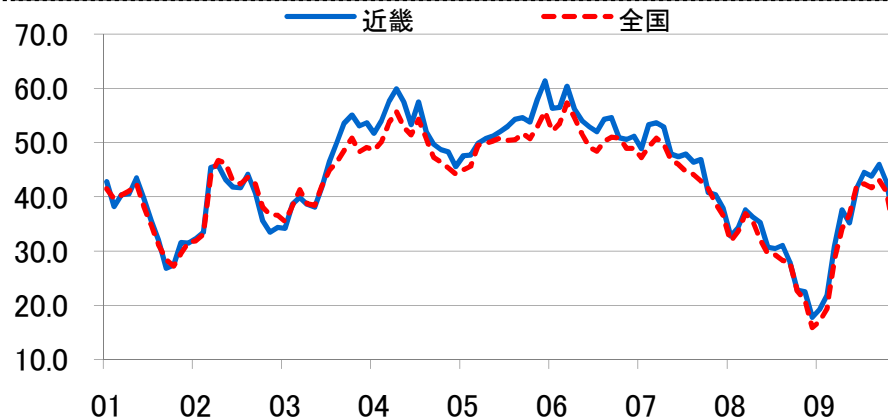
- ・ 近畿の09年10月の大型小売店売上高（既存店ベース）は前年同月比▲7.5%と19カ月連続のマイナス。前月(▲6.2%)からマイナス幅は拡大。雇用・所得環境の悪化や単価下落などが影響。全国は▲7.2%。
- ・ 百貨店は、前年同月比▲10.8%（全国▲10.6%）と20カ月連続のマイナス。商品別にみると、コート・セーター等が不調だった「婦人・子供服・洋品」(▲13.9%)、宝飾・貴金属などの高額品が不調だった「その他の商品」(▲12.2%)等、全ての品目が前年を下回った。
- ・ スーパーは同▲5.3%（全国▲5.2%）と11カ月連続のマイナス。インフルエンザ関連商品、液晶テレビ等は好調だったが、農産品、惣菜等が不調だった「飲食料品」(▲13.1%)、フォーマル等が不調だった「婦人・子供服・洋品」(▲9.2%)、「その他の衣料品」(▲27.2%)等全ての品目で前年比マイナス。

消費者態度指数（一般世帯 原数値・09年11月まで）



- ・ 11月の近畿の消費者態度指数（一般世帯、原数値）は前月比+0.1の39.4と横ばい。全国は前月比▲1.0の39.5。

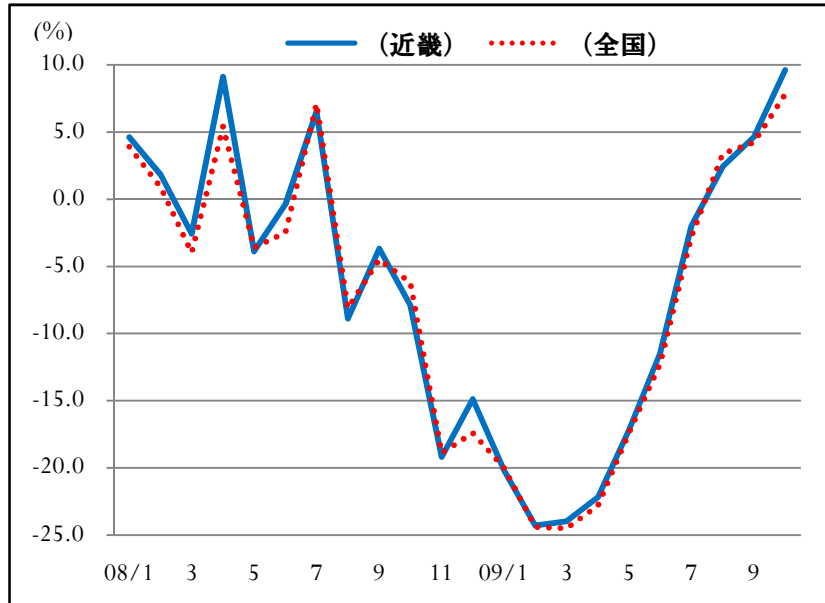
【参考】景気ウォッチャー調査（現状判断DI 09年11月まで）



- ・ 11月の近畿の現状判断DIは35.2で、前月(42.7)比▲7.5ポイント、2カ月連続の低下。全国は前月比▲7.0ポイントの33.9。
- ・ エコポイント・エコ減税効果の鈍化、価格競争の激化、等から低下。
- ・ 近畿の先行き判断DIは、前月比▲8.3の37.2。冬季賞与減額への懸念、価格競争の継続、円高や資金繰り悪化、新卒採用や雇用調整に対する懸念等から低下。

～個人消費～

新車登録台数（前年同月比・09年10月まで）



（出所）近畿経済産業局

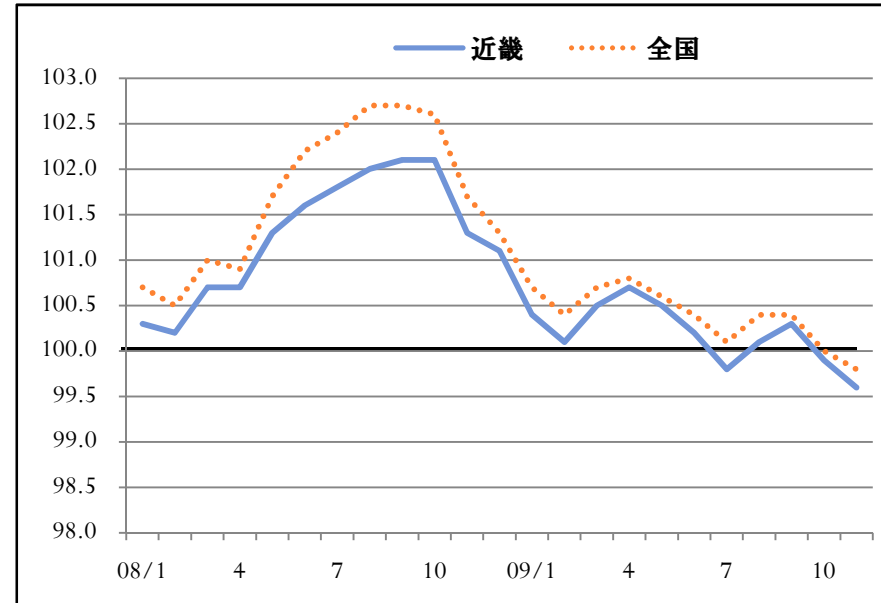
- ・ 近畿の09年10月の新車登録台数は、前年同月比+9.6%と、3カ月連続で前年を上回った。全国は同+7.8%。
- ・ 車種別では、普通車が前年同月比+22.5%と前年を大きく上回った。小型車は+22.6%と、普通車・小型車とも4カ月連続で前年を上回った。減税の効果が大きく表れている。減税対象車の少ない軽四車のみ、▲14.6%と、11カ月連続で前年を下回った。

【参考—家電販売額】

- ・ 近畿の09年10月の家電販売額は前年同月比+11.4%と、3カ月連続で前年を上回った。
- ・ 商品別では、空気清浄機+243.2%、カラーテレビ+32.6%、冷蔵庫+19.9%等が前年を上回った。マイナスだったのは、パソコン周辺機器▲14.0%、電話・FAX▲10.1%、等。

（出所）GfKジャパン

消費者物価指数（総合指数・09年11月まで）

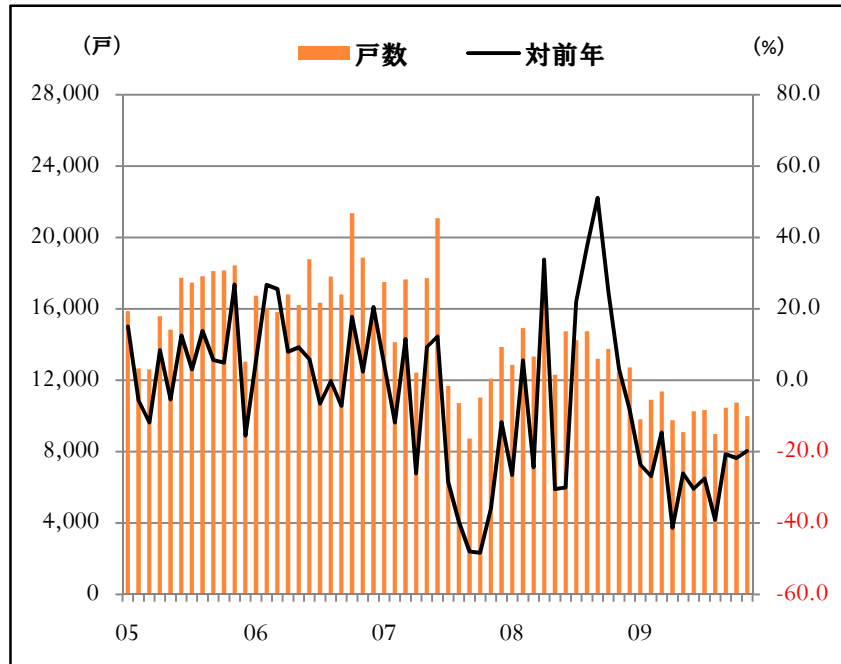


（出所）総務省

- ・ 近畿の09年11月の消費者物価指数（総合指数）は99.6と前月比▲0.3%の低下。前年同月比では▲1.7%と、7カ月連続のマイナス。食料（酒を除く）及びエネルギーを除く総合指数は、前月比▲0.1%、前年同月比▲1.0%の低下。
- ・ 全国の消費者物価指数は99.8で、前月比▲0.2%、前年同月比では▲1.9%の低下。
- ・ 食料、教養娯楽などが下落に寄与している。

～住宅投資～

新規住宅着工戸数（近畿・09年11月まで）



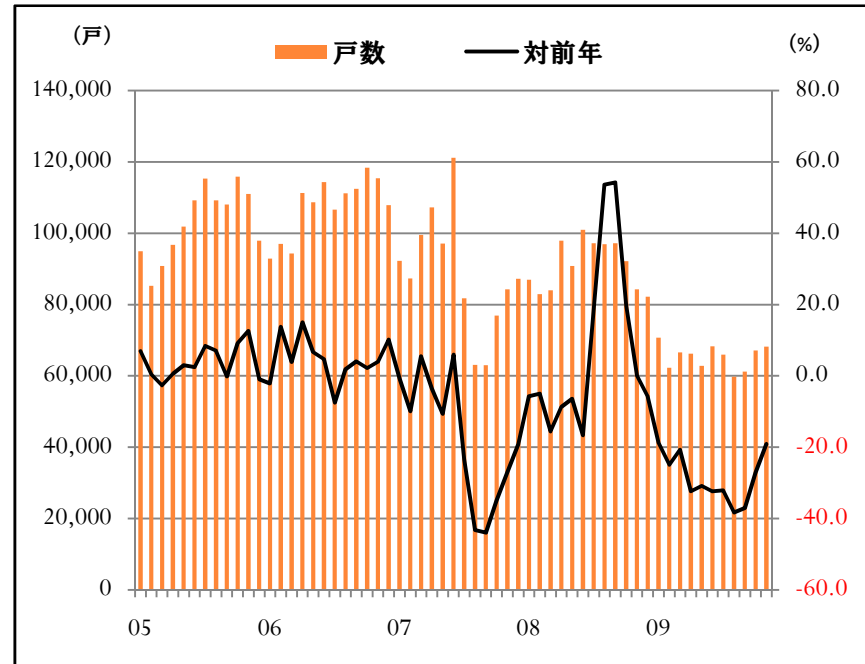
- ・近畿の新設住宅着工件数を見ると、11月は前年同月比▲19.8%と11カ月連続の減少。前月(▲21.8%)からマイナス幅は若干縮小。
- ・利用関係別の11月の対前年同月比を見ると、持家が+15.1%、貸家▲31.3%、分譲▲28.7%。分譲のうち、マンションが▲47.5%、一戸建て住宅が▲7.6%。
持家が2カ月連続の増加。

【参考－近畿のマンション市場】

- ・近畿の09年11月の契約率は60.9%と、前月(62.4%)から低下だが7カ月連続の60%超。
在庫は11月末時点で5,345戸。完成在庫の割合が増加している。

(出所) 不動産経済研究所資料

新規住宅着工戸数（全国・09年11月まで）

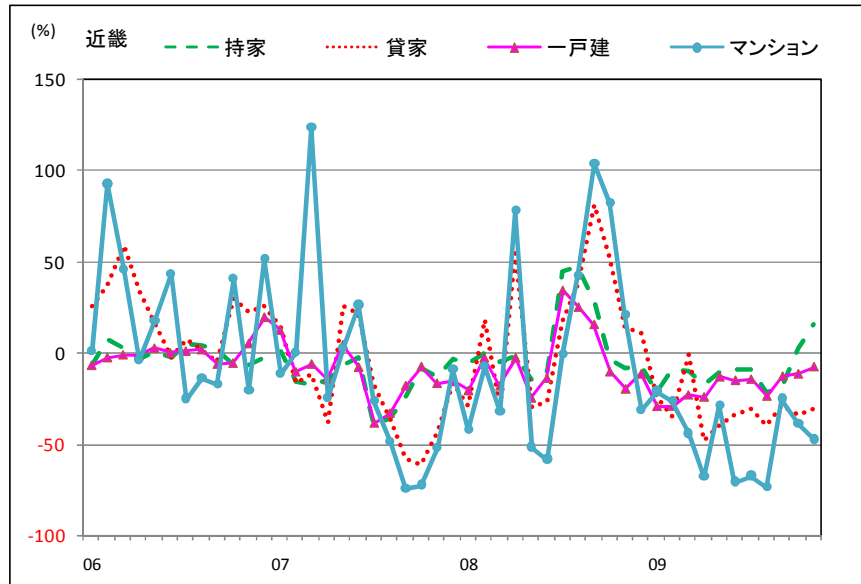


(出所) 国土交通省資料

- ・全国の新設住宅着工件数を見ると、11月は▲19.1%と11カ月連続の減少。前月(▲27.1%)からマイナス幅は縮小。
- ・利用関係別の11月の対前年同月比は、持家+8.3%、貸家▲25.3%、分譲▲38.2%。分譲のうち、マンションが▲63.7%、一戸建て住宅が▲1.5%。
持家が13カ月ぶりの増加。

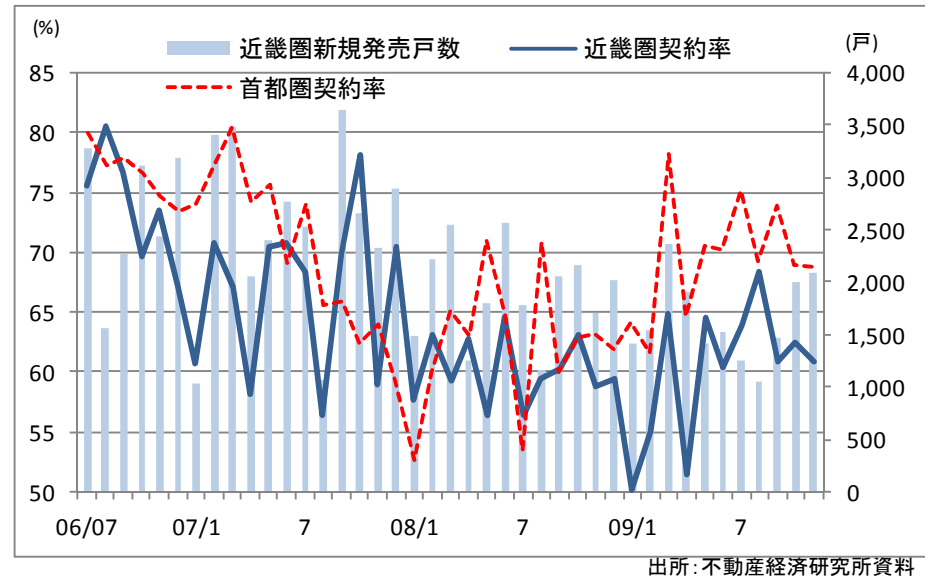
住宅投資～近畿圏のマンション動向～

利用関係別 新規住宅着工戸数 前年同月比(近畿・09年11月まで)



- ・持家は、06年度は4,000戸前後で推移していたが、07年7月頃から2500戸前後に減少。一旦持ち直したものの08年後半から再び2000戸台に減少。足下は、景気対策の効果もあり、持ち直しの動きが見られる。
- ・分譲のうち一戸建ては、持ち直しの動きが見られる。
- ・分譲のうち、マンションの新規着工戸数は09年6-8月の3ヶ月間、1,000戸を割り、大きく落ち込んだが、9月は1,639戸、10月は1,738戸、11月は1,230戸と、最悪期は脱したと考えられる。 マンションの新規着工について、着工から完売まで時間がかかり、また、少なくとも数十戸規模の需要が見込めない限り、着工できない等、リスクが高く、景気の影響を受けやすい。
- ・先行き、新規着工の回復が続くかどうかは、景況感、資金調達環境も含め、引き続き注視が必要。

マンション契約率及び新規発売戸数(09年11月まで)



- ・近畿のマンション契約率は、09年に入り大きく落ち込み、50%台が続いたが、足下、水準は低いものの60%超で安定。(好不調の目安は70%)
- ・販売在庫も減少傾向にあるものの、5,000戸を超え高水準。加えて、在庫に占める完成在庫の割合が増加している。
- ・新規販売戸数は、8月1,057戸を底に3カ月連続で増加。しかし、08年、09年とも20,000戸/年を割り、91年以来の低水準が続く。先行きも一定数の販売が予定されているが、これは延期された販売がここにきて実施されているといった側面もある。
- ・加えて、雇用所得環境が改善せず、近畿の人口も伸び悩む。近畿のマンション販売は先行き不透明な状態が続く。
- ・一方、首都圏は、価格が下がっていること、人口の流入が続いていることもあり、近畿と比べると契約率は高い。

～設備投資～

生産・営業用設備判断(日銀短観 「過剰」-「不足」)

全国	09年			近畿	09年		
	9月	12月	10年 3月		9月	12月	10年 3月
全産業	19	17	16	全産業	23	20	18
製造業	34	30	28	製造業	35	31	27
非製造業	8	7	8	非製造業	12	9	8

設備投資額の推移(対前年同期比 全国及び近畿)

		08年度		09年度		08年度 上半期	08年度 下半期	09年度 上半期	09年度 下半期
		▲	▲	▲	▲				
全 国	全産業	▲ 6.4	▲ 18.8	▲ 1.5	▲ 10.7	▲ 23.1	▲ 14.7		
	製造業	▲ 7.4	▲ 30.6	1.1	▲ 14.9	▲ 34.8	▲ 26.2		
	非製造業	▲ 5.8	▲ 12.4	▲ 2.9	▲ 8.4	▲ 16.3	▲ 8.9		
近 畿	全産業	▲ 1.6	▲ 14.3	3.1	▲ 5.6	▲ 19.8	▲ 9.1		
	製造業	▲ 6.5	▲ 26.7	2.4	▲ 14.9	▲ 33.9	▲ 18.3		
	非製造業	3.5	▲ 2.4	4.0	3.2	▲ 2.8	▲ 2.1		

(出所) 日本銀行

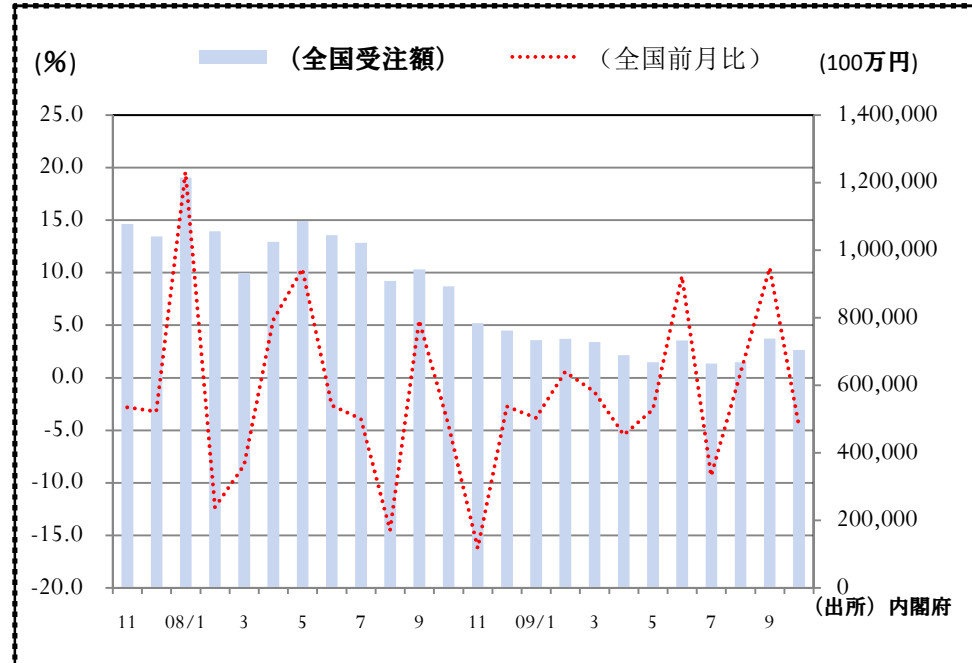
○09年12月の日銀短観によると、近畿の設備判断DIは、全産業20、製造業31、非製造業9で、特に、製造業で過剰感が高い。先行きも、改善が見込まれるものの、高い状態が続く。
○全国も同様の傾向。

○近畿の設備投資額(対前年同期比)については、09年度▲14.3%。ただし、下半期は▲9.1%で上半期(▲19.8%)からマイナス幅の縮小が見込まれる。

○業種別では、09年度は、製造業▲26.7%、非製造業▲2.4%。

製造業のマイナス幅が大きいが、下半期は▲18.3%で上半期(33.9%)から、マイナス幅の縮小が見込まれる。なお、非製造業は、全国と比べてもマイナス幅が小さい。不動産業、小売業は09年度、対前年プラス。

【参考】機械受注統計の推移(前月比 全国 09年10月実績まで)

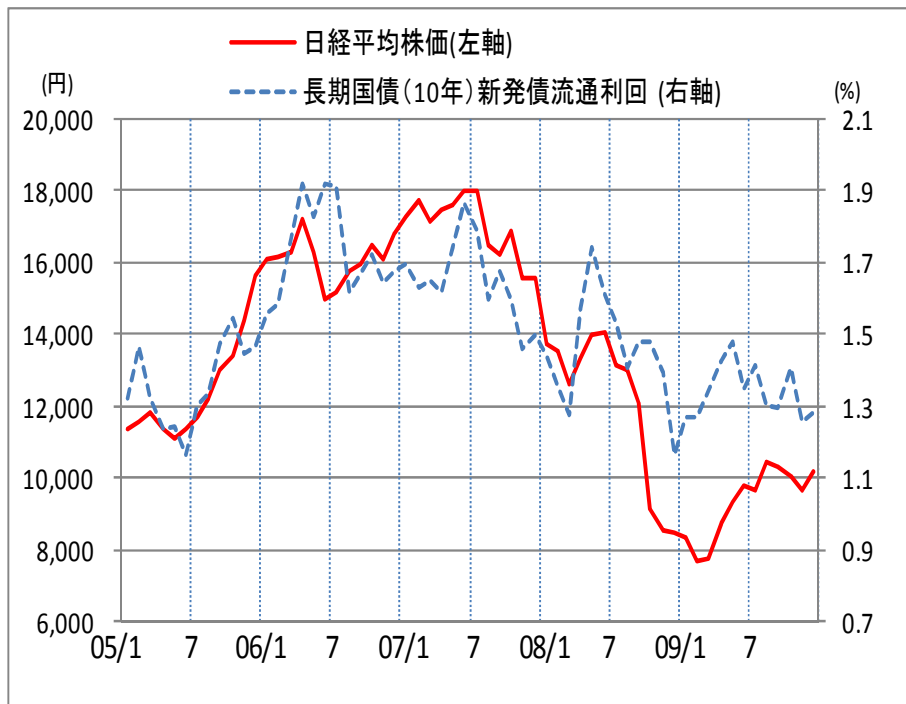


○機械受注統計の動向(船舶・電力を除く民需 09年10月実績まで)

- ・09年10月の「船舶・電力を除く民需」の機械受注額は7,045億円。前月比▲4.5%と、2カ月ぶりに低下。
- ・製造業は前月比+25.4%の2,939億円、非製造業(除く船舶・電力)は同 ▲17.3%の4,260億円となった。
- ・製造業を業種別に見ると、紙・パルプ工業+34.4%、精密機械+30.5%、繊維工業+15.8%、等で増加。低下したのは、石油・石炭製品工業▲45.6%、非鉄金属▲64.6%、一般機械▲22.8%、等。

～株式・長期金利～

日経平均株価(期中平均)・長期国債新発債流通利回(月末)
(09年12月まで)

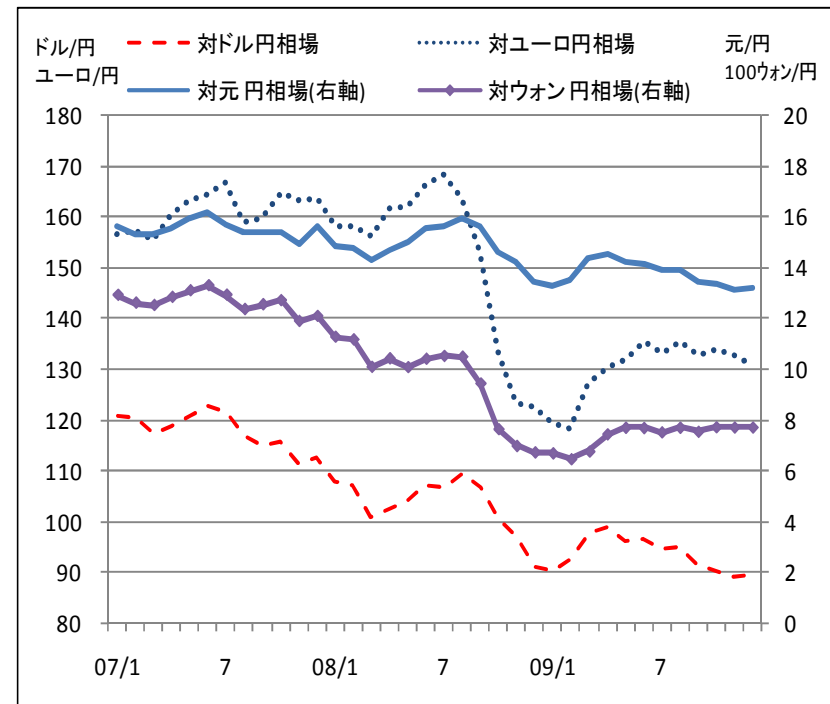


(出所) 日本銀行、日本経済新聞社

- ・12月の日経平均株価(期中平均)は 10169.01円で、11月より528.02円の上昇。
- ・12月末の長期国債(10年)新発債流通利回りは、年率1.285%、前月から+0.025%上昇。

～為替相場～

為替相場の動き(期中平均値・09年12月まで)

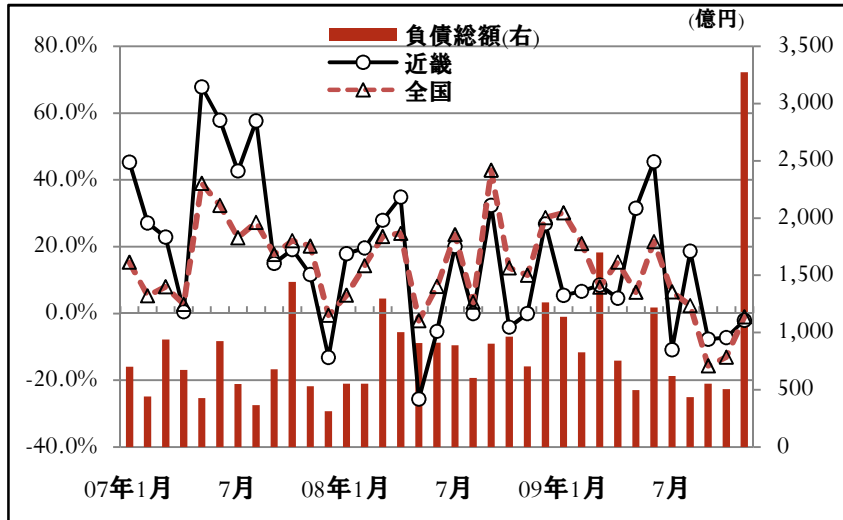


(出所) 日本経済新聞社、三菱UFJリサーチ&コンサルティング

- ・12月の対ドル円相場(期中平均)は89.55円で、11月より0.4円の円安。
- ・対ユーロ円相場は130.95円で、11月より2.0円の円高。
- ・対元円相場は13.13円で、11月より0.06円の円高。
- ・対ウォン円相場(100ウォンにつき円)は7.69円で、11月から横ばい。

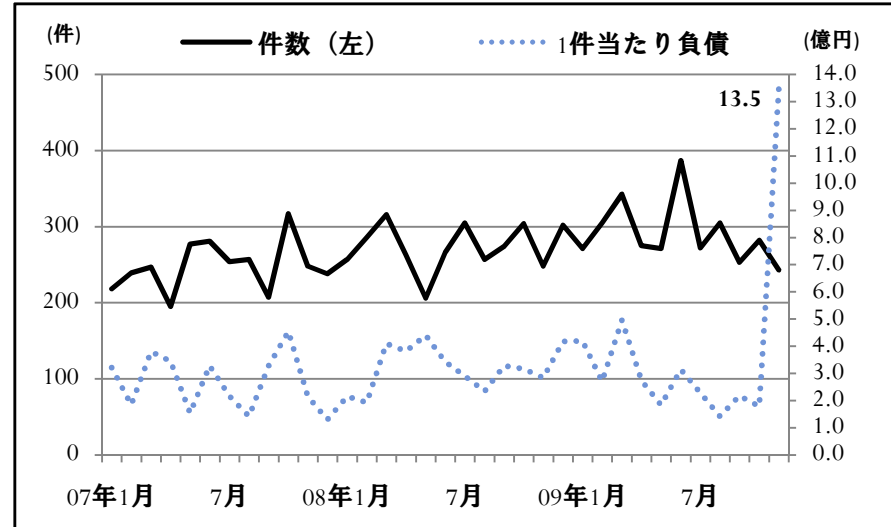
～倒産～

倒産件数・前年同月比の推移（07年1月～09年11月）



- ・09年11月の近畿の倒産件数は243件（前年同月比▲2.0%、前月比▲13.8%）と、今年最少。
- ・近畿の負債総額は、前月比+547.8%の3274億円。
- ・全国の倒産件数は1000件(前年同月比▲1.0%、前月比▲6.5%) 負債総額は6,908億円（前月比+174.8%）。

近畿の倒産件数と1件当たり負債額の推移



(出所) 帝国データバンク

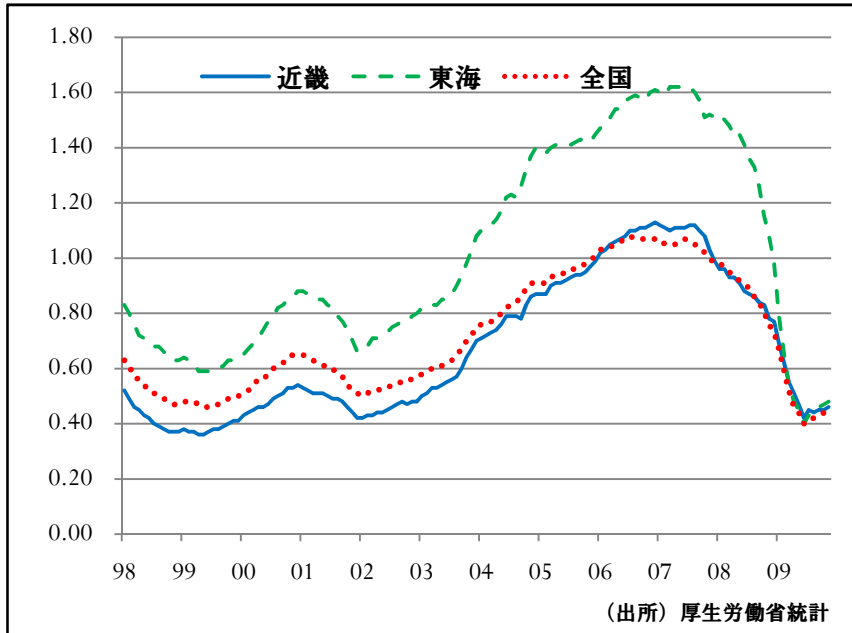
- ・(株)ロプロが、2500億円の負債を抱えて倒産したため、近畿の負債額は大幅に増加。
- ・全体では個人経営および資本金1000万円以下の企業が85.2%を占める。

09年10月以降の近畿の大型倒産

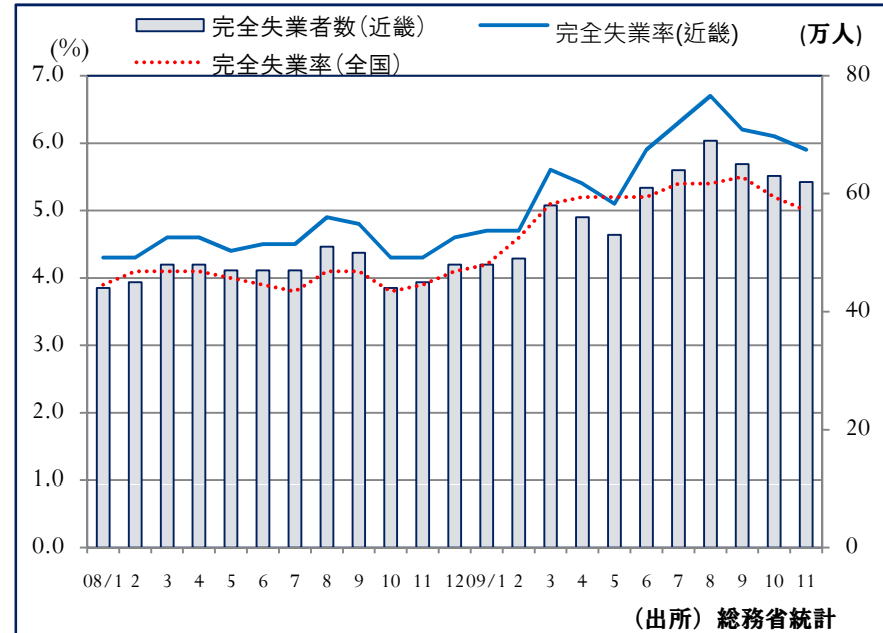
		(負債総額・億円)		
10月	和光化学工業(株)	大阪	ガラス容器塗装他	35
	ニシマツコーポレーション(株)	大阪	戸建住宅分譲他	40
	鶴崎高橋組	兵庫	住宅建築工事	33
11月	(株)ロプロ	大阪	事業者金融 ※東証・大証1部上場	2,500
	大西商事	京都	不動産売買	423
	(株)トップコン	兵庫	コンクリート製品製造、販売	39
	ヤシロ建設(株)	兵庫	建築工事	20
	大一港運(株)	大阪	港湾荷役・運送	20

～雇用～

有効求人倍率の推移（季節調整値・09年11月まで）



完全失業率の推移（原数値・09年11月まで）



地域別有効求人倍率（09年11月：下段は前月比）

全国	北海道	東北	南関東	北関東	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
0.45	0.41	0.34	0.46	0.43	0.49	0.48	0.46	0.56	0.56	0.39
0.01	0.03	▲0.01	0.00	▲0.01	0.00	0.01	0.01	0.01	0.00	0.00

- ・09年11月の近畿の有効求人倍率は、前月比+0.01の0.46倍。63年以降の最低値は99年4～5月の0.36。
- ・全国は0.45倍で、3カ月連続の上昇。地域別に見ると、東北と北関東で▲0.01、南関東・四国・九州で横ばい。その他の地域は前月から上昇。

- ・09年11月の近畿の完全失業率（原数値）は5.9%で、前月(6.1%)から0.2ポイント低下。3カ月連続の改善。全国は5.0%で前月(5.2%)から0.2ポイント改善。
- ・全国11月の季節調整値は5.2%で、前月(5.1%)から0.1ポイント悪化。7月に過去最悪を更新した後、低下し続けていたが3カ月ぶりに上昇。
- ・83年以降、失業率の最悪の値（原数値）は、近畿7.1%(02年7～9月期)、全国5.5%(02年4～6月期、03年1～3月期、4～6月期)。